

国語の学習 物語文 予習シリーズ5年上 第17回をもとにして。

著作権の関係で、本文及び問題文については引用の範囲を越えて使用することはできません。ご面倒でも、四谷大塚刊行予習シリーズの該当テキストをご覧の上、お読みください。

5年上巻 第17回 「物語・小説(6)」 基本問題

前回は、物語文の読解の前提

- (1) 人間関係の把握
- (2) あらすじの把握
- (3) (上記のために)時代背景の理解

記述の基本

・指示語の問題 指示語の該当箇所にもた指示語が出てくる。

・指示語は、

- ㊦ まず前からさがす。
- ㊧ 指示語の部分に入れて前後を読む。
- ㊨ 字数制限などの条件にしたがう。

まれに、後にあることがありますから、そのときは柔軟に対処する。

(2)の段階で通常気づきます。

第17回は、山本有三の「路傍の石」より 2012年までの教材では、第8回に今回の文章の先の部分が使われていた。

用語を知らないと、理解しづらい部分。鉄橋、まくら木、欄干など。なにより鉄橋では、枕木と枕木の間があいていて、そこから川底へと落ちる危険性があることの理解が必要です。本文の読了後に、説明する。

次に「見さげる」という言葉から類義語22行目「あわれまれている」を導き、作次・京造との関係をここからも、想像させる。

ほかに、「内職」も知らない子が多い。「路地のなか」がなぜ下に見られるのかも、理解しづらいだろう。江戸時代の、大通りに面しているかどうか(表店と裏店)など。

問一 事前の説明があるので、すんなりAは出てきますが、B・Cはやや時間がかかる。Bは「はね返してやろう」が答えになる部分の直前にあるので、字数制限との関係で頭を切り換えられるかどうか。字数指定を忘れてそのまま書く子と、すぐに別の場所を探し始める子と、悩み続けて思考停止の子といろいろです。

問二 文章が読めていれば楽勝、棒線の直前の文「しかし、京造の前で涙なんか見せては、恥である。」を指摘・確認。

問三 問二および次の問四の使用部分で正解へといきつく。

問四 22行目「…よく、のみこめなかった。」この部分を「…わからなかった。理解できなかった。」などに言い換える。もちろんそのまま解答の最後の部分を「…のみこめなかったから。」としても悪くはないが、一種のたとえの表現なので普通の表現に直す。

説明後、各自に書いて持ってこさせて、良いものに○をつけてあげるが、ここまで説明後なのでほとんどは、正解。ただし、親切を親切とする誤りが数人いる。書き写しも注意力が必要な段階。「親切」ということばが、使えれば写すも何も関係なし。

問五 選択肢で解答にならないものを省き、残りから決めさせる。したがって、ウとエから決めさせることとなった。エを選んだ子には最後の「腹立たしかったから。」ならば、長い時間決められずに悩んでいることにならないと説明。棒線の前の「あっちを考えたり、こっちを考えたり…」2つの考えでゆれている。それは何と何か。38行から48行の段落。

問六 56行目から63行目。「えこじだな、おめえは。」から「えこじ」の意味を想像させる。「いこじ」の類義語で、「えこひいき」の「依怙」といってもなかなかことばからは、思いつかないがストーリーからこだわりやプライドが強く、素直に好意をうけられなれないことは、理解できる子が多く、(強情、意地を張るなどに)言い換えられなくても、なんとなくマイナスの意味だとは理解しているようだった。

問四で「…あわれんでいっているのか、親切でいってくれてるのか、…」とあったがどっちだったのの確認。

「投げつけるようにいった」から話し手の気持ちを質問する。

問九 主題(テーマ)を記号選択で問う問題。「エ」とする間違いが出てきますが、問四・問六の記憶があれば、「ア」とすぐ判断できます。

参考

● 指示語の品詞

この、その、あの、どの … 連体詞

こう、そう、ああ、どう … 副詞

こんな(だ)、そんな(だ)、あんな(だ)、どんな(だ) … 形容動詞

その他は、すべて代名詞

品詞によって答え方が、違ってきます。指示語に置き換えられるように(次の言葉につながるように)答える。